

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 びっころ16			
○保護者評価実施期間	令和7年3月10日		～	令和7年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12家庭	(回答者数)	12家庭
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日		～	令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月24日			

果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ST・OT・保育士による、多角的な視点を持つようにしている。 また、根拠のある苦しさの追求・評価、そこに対する支援の共有。	・朝礼や昼礼で共有。気になる点があるとケース会議を行ない、情報共有と支援方法。またその後のお子様の反応、支援者が思い描いていた様子と異なる事(誤学習にならないか等)まで考えているので、二手三手先まで見据えるようにしている。	・支援者が見ている方向性の共有や、様々な事象に対応できるようにケースに触れる機会・フィードバックを多く作る。 ・様々な可能性や支援性があることを視野に入れるよう、決めつけはしないように徹底。
2	午前と午後で年齢や苦しさによるグループ分けをしているので、お子様にあった支援を行なっている。	お子様の苦手な要因に合わせた支援、今後の生活を見据えた評価が出来るように職員間での評価ツールの可視化。幼稚園・保育園での大きな集団と当事業所の小集団を経験することで、実生活の場に般化していくよう支援を行なっている。	午前利用の場合、幼稚園を休んで利用になるご家庭もありますので、支援性の実感を感じてもらえるような説明。また、幼稚園・保育園のご理解を頂けるよう連携もとる。
3	保護者様との対面での面談や、zoom・電話にて面談。 ※zoomと電話に関しては児童の様子や保護者様の希望によるので、全ご家庭ではない。面談は支援計画の更新時期に全ご家庭実施。	・zoomを行なう際に、見て頂きたいポイントを保護者様に共有し、ただの見学にならないように行なっている。 ※保護者様が見たいポイントも聞いております。 例) 幼稚園では座れないから集中している様子、家では切り替えが難しいから場面の切り替えがスムーズにいく様子等	・見学実施になることをお子様が知ってしまうと、いつもと様子が変わってしまう(緊張したり高揚等)ので、お子様に伝えないよう協力してもらうことを周知しているが、なかには知っているお子様もいるので、協力いただく説明の充実。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・サービス提供時間の兼ね合いで、送迎範囲を狭く設定している。一人一人の到着時間が遅くなり、支援が行き届かなくなる。	・送迎に割ける人員(必ず添乗をつけている)を考慮すると車の台数が2台ずつしか出せないで、遠い送迎先のルートを作ることでは到着時間が遅れてしまう。	・送迎の考え方、組み方はたくさん工夫してきた。送迎範囲外に新事業所を出す以外、遠い送迎先のカバーは難しい。
2	・午前と午後に分けているので、午前利用の場合には、幼稚園を中抜け又は休み。保育園は中抜けをお願いしてしまうので、保護者様のニーズとして幼稚園・保育園を週5希望の方の利用が難しい。	・苦手に合わせた支援のハードル設定なので、お子様にとっては過ごしやすく支援性がマッチするように取り組んでいるが、実生活の場となる保育園・幼稚園や保護者様の考え次第では利用になりにくい。	・見学やケース会議を行なった関係機関にはご理解いただけているので、
3	・ルールの定着やハードルに合わせて受け入れしている事業所を決めているので、長年利用しているお子様によっては、同じ活動の繰り返しに感じたり、慣れている活動であれば物足りなく感じてしまうお子様も。	・小集団ではあるが集団生活なので、個々人のハードル設定と、集団活動としてのルール・ハードル設定が少し異なってしまう。	様々なお子様が利用されているので、個人のハードル設定と集団のハードル設定が異なることは致し方ない部分でもあるが、活動によってはいつもと違ったルールを取り入れたり、飽きないような工夫はしている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所びっころ16

公表日 令和7年3月24日

利用児童数 13家庭

回収数 12家庭

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
・ 体 制 整 備 カ ン キ ョ ウ ウ エ イ セ	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12					
適 切 な 支 援 の 提 供 テ キ セ ツ シ ン デ イ キ ョ ウ	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7			5		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11			1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5		2	5		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12					
保 護 者 へ の 説 明 等 ホ コ シ ヤ セ ツ メ イ ト ウ	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8		1	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていていると思いますか。	12					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			3	9		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1		3		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	1		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	1				
常 時 等 の 対 応 ヒ ジ ョ ウ シ ト ウ エ イ セ	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1	1	6		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	1		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1				
満 足 度 マ ン ジ ョ ウ ク ド	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11			1		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	12					